

1:1 ダビデ王は年を重ねて老人になっていた。そのため衣をいくら着せても温まらなかった。

1:2 家来たちは王に言った。「王のために一人の若い処女を探し、御前に仕えて世話をするようにし、王の懐に寝させて王が温まるようにいたしましょう。」

1:3 こうして彼らは、イスラエルの国中に美しい娘を探し求め、シュネム人の女アビシャグを見つけて、王のもとに連れて来た。

1:4 この娘は非常に美しかった。彼女は王の世話をするようになり、彼に仕えたが、王は彼女を知ることがなかった。

1:5 ときに、ハギテの子アドニヤは、「私が王になる」と言って野心を抱き、戦車、騎兵、それに自分の前に走る者五十人を手に入れた。

1:6 彼の父は、「おまえは、どうしてこんなことをしたのか」と言って、彼のことで心を痛めたことは一度もなかった。そのうえ、彼は非常に体格も良く、アブサロムの次に生まれた子であった。

1:7 彼がツェルヤの子ヨアブと祭司エブヤタルに相談をしたので、彼らはアドニヤを支持するようになった。

1:8 しかし、祭司ツアドクとエホヤダの子ベナヤと預言者ナタン、それにシムイとレイ、およびダビデの勇士たちは、アドニヤにくみしなかった。

1:9 アドニヤは、エン・ロゲルの近くにあるゾヘレテの石のそばで、羊、牛、肥えた家畜をいけにえとして献げ、王の息子たちである自分のすべての兄弟たちと、王の家来である

ユダのすべての人々を招いた。

1:10 しかし、預言者ナタン、ベナヤ、勇士たち、そして自分の兄弟ソロモンは招かなかった。

列王記は王の記録ですが、実のところ彼らのほとんどが主に従わなかったという失敗の記録です。そしてそれゆえに王国が滅んでしまったという悲劇の記録でもあります。王も人であるゆえの限界があるのであって、それはダビデでも同じです。イスラエル王国を確立したダビデでしたが、老年になるとあらゆる面で衰えてしまい、指導力も低下して彼の身内から謀反が起こったのです。

私たちにとっても、年齢的な面で衰えるとき、気をつけなければなりません。謙遜になる必要もありますし、責任ある立場から退く決断も必要です。

旧約聖書は失敗の記録であるとともに、霊的な真理をイスラエルの歴史から学ぶものでもあります。すなわち私たちの信仰面で解釈するのは、そこで学べきことは、たとえ年齢が若くても、その信仰が衰えてしまうとき、または成長がなくなってしまうとき、私たちは警戒しなくてはならないということです。謙遜になる必要があります。誰もが霊的に鈍くなった状態から、もっと前向きな若々しい信仰に変わる必要があるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

